

研究所だより

「海外出張」

我が国では、従来より政策立案やプロジェクト等において海外の事例を参考にしてきました。木に竹を接ぐような状況も頻発していますが、他の先行事例等を精査して反映すること自体は必要です。

我々も様々なテーマで海外出張を行っています。近年ではインターネットで相当量・質の情報が入手できるため、単に資料入手のための出張はほとんどなくなっています。バブル期には多くのデベロッパーやゼネコン、行政、土地活用権者等が視察と称して殺到したこともあったことが懐かしく思われます。その中でも、米国の商業デベにヒアリングをした際に、先方が日本からのしかも金融機関関連研究所ということで資金調達のきっかけと考えたのかと思いますが、極めて、詳細な情報提供と丁寧な歓迎を受けたことを思い出しました。同時にプレゼへの用意周到でしかもスマートな対応等に驚きました。ホテルのウェルカムカードからプレゼ、具体的な分かりやすい詳細な資料、現地案内等です。また、どこに行ってもオフィスが広くしかも効率的であり、生産性が上がりそうな空間でした。調査内容はそれなりに咀嚼したつもりですが、用意周到なプレゼとオフィス空間は未だに習得できていません。

海外での発表などの機会も増えつつあります。7月に弊社のスタッフが参加した WCTR (World Conference on Transport Research Society) は国土交通政策に関する定量的・予測・評価に関する政策志向型の世界的な学会ですが、当社が構築した応用都市経済モデル (CUE) は環境負荷・経済・土地利用・交通を統合的に分析するモデルで、これら4分野をすべてミクロ経済学的に記述した実用化モデルとしては唯一のものです。弊社ではこれを OECD デカップリングプロジェクトやコンパクトシティ関連調査、国会等移転コスト調査等で活用し、これまで不可能であった各種の定量的な分析・評価を行っています。このような高いレベルの内容を海外に向けて発信することことも今後さらに重要になってくると思います。

これからも多くのメンバーが海外出張に出向きますが、必要な情報入手とともに、滞在する都市空間を体感し、よく見てくることが現地を訪問する意義として重要です。

編集者から

これまでは、研究所の紹介を兼ねて出来るだけ多くの異なる分野により構成してきました。今後は出来るだけ絞ってテーマ性の高い構成にしたいと思っています。

本号は都市を「はかる」とし、次号は住宅基本法を念頭においた「住宅政策」をテーマにしたいと思っています。といっても、昨今は政策が横断的になっており、多くの要素が複雑に絡んでいます。

時代の要請とともに政策が横断的・統合的にしかも迅速な対応も要求されますので、我々もそれに追いつき、追い越すべく不断の努力を続けて、その成果を随時、Best Value に掲載していきたいと思っています。

● 04号目次

テーマ1	新たな政策立案の潮流とシンクタンク役割
テーマ2	「政策」の「評価」について
テーマ3	非市場財の経済評価
テーマ4	都市における定量的な分析・予測・評価手法の可能性
テーマ5	日本の住宅金融の転換に向けて
テーマ6	密集市街地整備型リバースモーゲージシステム
テーマ7	若者の地方回帰
テーマ8	ソフト・サービス分野におけるPPP
テーマ9	所有権の住宅と利用権の介護施設を組合せた新しい居住形態：ジュリオ
テーマ10	サービスオフィス：多様化するオフィス形態
テーマ11	アウトソーシング
テーマ12	都市再生とベイエリア連合構想への道

● 05号目次

テーマ1	新たな政策立案の潮流(2)- 英国に学ぶ視点-
テーマ2	21世紀のエネルギーインフラ整備に向けて
テーマ3	水素社会への移行
テーマ4	欧州の温室効果ガス排出動向と我が国の取組
テーマ5	政策評価における定量的な分析・評価手法
テーマ6	都市整備と都市整備とエリアマネジメント
テーマ7	小売業の概況と商業施設の不動産証券化
テーマ8	東京湾ベイエリア産業ビジョン
テーマ9	全国のリサーチパークの現状と課題
テーマ10	GISをとりまく近年の動向と展望
テーマ11	事業用借地権の現状と展望
テーマ12	カジノと観光産業

● 06号目次

テーマ1	新たな政策立案の潮流(3)- 原点を見据える-
テーマ2	コーポレートガバナンス
テーマ3	非営利法人のガバナンス
テーマ4	国家のガバナンス
テーマ5	ハウジング・アフォーダビリティ指標の算出
テーマ6	循環型社会形成に向けたエココミュニティー事業
テーマ7	リバースモーゲージの現状と今後の展開について
テーマ8	知的資本経営
テーマ9	米国の水素ハイウェイ構想と自治体への期待
テーマ10	路地裏感覚でみた中国経済